

知事記者会見の概要

日 時：令和5年2月15日(水) 10:00～10:25

場 所：502会議室

出席記者：11名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 今後の知事の県政運営について

フリー質問

- (1) 韓国からの国際チャーター便運航計画について
- (2) 中国の無人偵察用気球とみられる飛行物体について
- (3) 県議会議員選挙への対応について
- (4) 学校におけるマスクの着用について

<幹事社：山新・時事・SAY>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。低温の日が続いております。県民の皆様には、くれぐれも寒さ対策にご留意いただきますようお願いいたします。同時にですね、除排雪の事故ですとか転倒事故、スリップ事故などにもご注意くださいとさせていただきますようお願いいたします。

それでは、新型コロナについて申し上げます。

全国の新規感染者数は、減少傾向が続いておりまして、病床使用率も低下しております。

本県内におきましても、2月に入って1日の新規感染者数が2桁になる日も複数ありました。病床使用率も10%台で推移するなど、全体として緩やかな減少が続いております。

一方、季節性インフルエンザが、県内5つの保健所管内全てで流行期となりました。新型コロナもインフルエンザも共に基本的な感染対策が有効と聞いておりますので、県民の皆様には、引き続き、換気の励行や場面に応じた不織布マスク、そしてゼロ密、こまめな手洗いなど、基本的な感染防止対策をお願いしたいと思います。

加えまして、ワクチン接種を希望される皆様には、できるだけ早く接種していただくとともに、発熱などの体調不良時に備えて、抗原検査キットや市販の解熱鎮痛薬などをあらかじめご準備いただきますようお願いいたします。

なお、先週、政府より、来月3月の13日から「マスク着用は個人の判断を基本とする」旨の方針が示されました。

県としましては、本日午後に新型コロナの本部員会議を開催し、本県として今後のマスク着用に係る取扱いについて、協議・決定したうえで、県民の皆様や事業者の皆様へしっかりとお伝えしてまいりたいと考えております。

また、学校におけるマスクの取扱いですが、これは文科省から「4月1日以降の新学期からマスクの着用を求めないことを基本とする」とされました。さらに、4月1日より前に実施される卒業式について、児童生徒及び教職員は、マスクを外すことを基本とすることが示されたところであります。

県教育委員会からは、文科省から示された、卒業式におけるマスクの取扱いに関する基本的な方針を踏まえ、合唱や呼びかけ時以外は、マスクを着用せずに出席することを基本とすることや、引き続き、効果的な換気などの対策を講じることについて、県立学校及び市町村教育委員会に通知した旨の報告を受けております。

卒業式につきましては、学校生活の中で節目となる重要な行事でありますし、児童生徒の皆さんや、保護者の方々にとりましても特別なものだと思います。学校においては、今回の見直しを踏まえ、適切な実施に努めていただきたいというふうに思っております。私からは以上です。

☆代表質問

記者

時事通信の村上と申します。よろしくお願いします。

幹事社からは、知事の今後の県政運営について質問をさせていただきます。

一昨年(2020年)の2月14日に知事の4期目の任期が始まり、今年2年(2021年)が経って、折り返し地点を迎えたということですね、これまでの振り返りということで、振り返ってみますとですね、引き続き、新型コロナウイルスの対応であったりとか、あと、自然災害、多く起こってその対応に追われたりだったり、多くの県政課題があったかと思えます。あと、県政で言いますと半年以上にわたる副知事の不在であったりとか、あとは昨年度の当初予算案への議会の反対であったりとかですね、必ずしも順風満帆とは言えない県政運営だったかなと思うんですけど、これまでの2年間を振り返って、知事、どのようにこれまでの県政運営を受け止めてらっしゃるか、残る2年の任期、どのように県政を進めていきたいかということをお伺いできればと思います。よろしくお願いします。

知事

一昨年に私にとりましては、4期目の選挙がございましたけど、当時は、本当に新型コロナウイルス感染症の真ただ中にありました。それで私としましては、「コロナ克服・山形経済再生」ということを掲げて、4期目に挑戦をいたしまして、結果的には、多くの県民の皆様からご支持をいただき、再選をさせていただきました。

知事就任以来、一貫して「心の通う温かい県政」の基本姿勢に立ち、4期目においても、県民の皆様への命と暮らしを守ることを最優先に、この2年間、全力で取り組んでまいりました。

まずもって、新型コロナにつきましては、市町村や医療関係者等と連携し、医療提供体制の確保とワクチン接種の推進など感染対策に力を注ぐとともに、コロナ禍で大きな影響を受けている中小・小規模事業者の皆様に対して、原材料・燃料費の高騰等への対応を含め支援を強化してきたところであります。

加えまして、近年、県内では大規模な自然災害に見舞われております。昨年(2020年)の8月の置賜地域を中心とした大雨、この大雨では道路や鉄道などのインフラに甚大な被害が生じました。そして12月には、鶴岡市の西目地区で土砂災害が発生いたしました。2名の県民の方がお亡くなりになりました。改めてお悔やみを申し上げたいと思います。そして、被災された皆様へ心からお見舞いを申し上げます。現在、復旧対策を進めているところでありますけれども、災害が頻発・激甚化する中で、「やまがた強靱化」に向けた取り組みを、なお一層、進めていく必要があるというふうに考えているところであります。

こういったいろいろ厳しい状況もありましたけれども、そういうことがありましても、本県の将来の発展に直結すると思われる「米沢トンネル(仮称)」の整備について、JR東日本と覚書を締結することができました。これは、県とJR東日本とが同じ方向を向いて、しっ

かりと前に進めていくという、そういう土台ができたものというふうに考えているところ
であります。また、創業件数が28件にのぼる「スタートアップステーション・ジョージ山
形」の開設やヤマガタ・ユースサミットの初開催など、この2年間で「本県の未来を拓く」
様々な施策を進めることができたものと考えております。

さて、今後ということでありますけれども、社会情勢の変化としまして、新型コロナにつ
いては、入国に関しての水際対策の緩和や感染症法上の位置付けが「2類相当」から「5類」
へ移行する予定など、新たな段階へという時期に来ているというふうに思います。

一方で、依然として少子高齢化を伴う人口減少、これは本県の構造的課題であります。今
後は、こうした変化や課題にも的確に対応しながら、山形県の未来を見据え、積極的にチャ
レンジしてまいりたいと考えております。

昨日公表しました令和5年度当初予算案におきましても、人材の育成・確保により、本県
の未来を築くことを大きくうたっております。明日の山形を創るのは何と言っても「人」で
あります。

中でも、庄内地域で初の中高一貫校となる県立致道館中学校・高等学校、そして東北初の
農林業の専門職大学となる東北農林専門職大学（仮称）。これにつきましては、令和6年の
開校・開学に向けて、引き続きしっかりと準備を進めてまいります。

加えて、様々な分野でのリスクリングを強化し、DXやGXの推進による県内産業の高付
加価値化、そして県外・国外との交流人口、関係人口の拡大、輸出の促進などにより、県民
所得の向上、県内経済の成長につながる好循環を生み出し、県税収入の増加を図り、持続可
能な県政運営に努めてまいります。

さらには、幸せな子育て環境の整備や若者・女性の県内定着・回帰、新しい働き方に対応
した移住・定住の促進などにも力を入れ、人口減少下でありましても活力ある地域づくりを
進めますとともに、県民の皆様の安全・安心な暮らしを守るため、ソフト・ハード両面から
災害に強い県土づくりに引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

今年もですね、さくらんぼの大玉新品種「やまがた紅王」の本格デビューがありますし、新
しい県立新庄病院の開院などを予定してございます。こうした取組みの一つひとつについ
て、県民の皆様はじめ、多くの方々の期待に応えられるよう全力で取り組みますとともに、
これからの2年間も、引き続き、県民の皆様にも真の豊かさと幸せを実感いただけるような山
形県を実現させるべく全力で取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

記者

ありがとうございます。ご発言に関連してですね、県の発展に直結する米沢トンネル、土
台ができたということで、今後2年の任期ではあるんですけども、息の長いプロジェクト
もいくつかあるということで、今の時点では少し早いかもしれないんですけども、知事の
5期目についてどのようにお考えか、何か考えていることがあればお伺いできますでしょ
うか。

知事

その質問はまったく予想しておりませんでした。これまでも私の姿勢というのは、次の期どうするかというよりもですね、まずとにかく現状、しっかりと全力で県民の皆様の県政にまい進するということがあります。それから、もちろん将来を見据えての山形県の未来を拓く、希望にあふれた山形県を作っていきたいという思いで未来志向のいろいろな県の施策に取り組んでまいりたいというふうに思っております。

とにかく全力でそういったことに取り組んでいく、その先にですね、5期目とかそういったことはあるのかもしれないというふうに思っておりますけど、現時点で次の期ということまではまったく考えていないところでございます。まず4期目、しっかりと全力で取り組んでいきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。幹事社からは以上です。

☆ フリー質問

記者

NHKの桐山と申します。よろしくお願ひします。

今朝、山形新聞さんの報道でですね、韓国とのチャーター便のですね、調整を民間レベルでされているということで、報道で名前が出ていた方は県のインバウンド協会の幹部でもありますし、昨日の予算でもチャーター便の誘致のための助成などがあるので、県とも当然そういった助成などで将来的には必ず調整が県にも入るのかなと思うんですけども、今の県のほうで何かチャーター便の誘致、韓国に限らずなんですけども、何かされていることなどございましたら、まず現状を説明していただけないでしょうか。

知事

はい、わかりました。まず、韓国でありますけれども、報道がありました韓国からのチャーター便運航計画につきましては、DMC蔵王温泉ツーリズムコミッティの岡崎社長が2月初めに韓国を訪問され、交友のある韓国旅行業協会の会長と面談した際に、山形空港への国際チャーター便運航を検討しているというお話があったものであると。そして、県としましても、実現に向けて現在、関係者と調整をしているところでございます。

便数や日程などの具体的な運航計画につきましては、来週、会長が来県される予定でございますので、その時に詳しいお話がお聞きできるのではないかと考えているところです。

本県への国際チャーター便が実現すれば、令和2年2月以来となります。運航に向けて関係者と準備を進めてまいりたいと考えております。

それから、それ以外の計画はということでもありますけど、コロナ禍前の令和元年度におきましては、韓国からの国際チャーター便が2便1往復、そして、台湾からの国際チャーター便が248便、124往復運航しておりました。台湾から仙台空港や新潟空港への定期便が1月から再開されて、地方空港への運航が徐々に始まっております。そういうことで、台湾の航空会社や旅行会社に対して、国際チャーター便の運航の働きかけを強化しているところでございます。

予算もしっかりとつけているということでもありますので、前にしっかり進めていきたいというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。その台湾・韓国から、特にコロナ禍前、台湾は特に多くいらっしゃっていたと思います。台湾・韓国の方、もしこのまま先方との調整がうまくいって韓国からチャーター便が来るということになれば、山形県内の観光地もかなり潤う、それだけではなくて向こうの人に山形の良さも知ってもらえるということで、様々な効果が期待されるかと思うのですが、そのあたりの期待感はいかがでしょう。

知事

そうですね、観光業というのは本当にこのコロナ禍、3年も続きましてね、大変な状況でありました。そして観光産業というのは裾野の広い産業でありますので、様々な広い分野で深刻な影響が起きていたというふうに思います。それがですね、全国の旅割キャンペーンでありましたり、このインバウンドの再開というようなことで、やはり復活に大きく期待をしているというふうに思います。

経済活性化ということでもしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますし、今記者さんがおっしゃったように、観光というのはですね、本当に平和産業だと思います。国と国、国民と国民というふうにですね、人間として実際に訪れていただいて、あるいはこちらからも外国に訪れて、お互いにその良さを理解するというようなことはですね、本当に国際間の平和というようなことでもやはり私は大いに寄与することができるというふうに思いますので、観光は本当に早く再開して、交流人口、関係人口が増えていくことが望ましいというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。すいません、まったく別の話題になってしまって、今、平和という話があって真逆の話になってしまって恐縮なんですけども、昨日の晩ですね、防衛省のほうで偵察気球、山形でも何年前にそれに近いものが確認されたというところで、山形の上空も飛んでいたと。それが中国の偵察気球であることが強く推定されると防衛省のほうで発表がありました。まず、このことについての所感をお願いします。

知事

はい。最近のニュースでですね、やはり報道で、アメリカで気球を撃墜したとかですね、カナダの上空でも、そして今度は日本、しかも山形の上空でもというようなことが矢継ぎ早にですね、立て続けに報道されて、本当にまずは驚いております。誰がなんの目的でこういう飛行物体といいますか、気球を飛ばしたのかというようなことがわからない状況でありますので、本当に不気味だと思います。

県民・国民もですね、不安な気持ちをお持ちだというふうに思っておりますので、政府にはしっかりと対処して、対応していただきたいというふうに思っているところです。

記者

ありがとうございます。最後に、また話題が変わって恐縮なんですけど、県議選について伺います。

吉村知事はこれまで国政選挙などに関しましては、基本的に恩返しが私の信条だということで、応援した方の応援演説、事務所に出向いてしゃべったり、あるいは事務所を応援したりという形で応援をされてきたと思います。今度の県議選ではどのようなスタンスを取るかというのは今のところ決まっていますでしょうか。よろしくお願いします。

知事

そうですね、4月に統一地方選挙ということで、大変大掛かりな選挙があるかと思っております。住民の皆さんのいろいろな思いが反映される非常に大切な選挙だというふうに思っております。

私がどういうふうな行動を取るかということについてはですね、今の段階では全く白紙の状態ということであります。まず目の前、県議会が始まりますので、そこでの議会の皆さんに対して予算の説明をするというようなことがやはり直近のもっとも大きな役割かなというふうに思っておりますので、まず県議選に対しての私の行動というのはちょっと、基本は基本なんですけれども、どういうふうなことを行動するかというようなことについてはちょっとまだ考えていないところでございます。

記者

承知いたしました。ありがとうございます。

記者

TUYの鈴木です。

午後の本部員会議で出るかもしれないんですが、マスクの件で、卒業式の部分に関しては県教委（補足：県教育委員会）から方針が示されましたが、4月以降の新年度ですね、入学

式、始業式、それから授業、給食、部活動、こういった点で、現場の取材で例えば校長先生などから、3年間こういう生活をしてきていきなり個人の判断と言われても、一つは差別とか誹謗中傷が心配だという声、それから混乱が起きないかという、いきなり個人の判断と言われても、そこをどう対処すればいいか。あとは、例えば学校によって今後も流行したり、あとは暑い時期を迎える時とかいろんな想定がある中で、学校に裁量を任せてほしいという声も上がっているんですが、このあたり、県としてですね、今後学校に対して、県立学校、市町村の小中学校に対する指針とかまとめを示されるようなお考えがあるのか、あと、知事自身のお考えも含めてお願いしたいのですが。

知事

はい。県教委としてですね、政府の、文科省の方針をきちんと伝えるということで、県立学校や市町村教育委員会に通知をした、お示しをしたというようなことは聞いております。

それで、3年間のこれまでの経緯もありますので、周知までに時間がありますので、その間にやはり様々なですね、差別とかいろんなことが、マイナスの面が起きないようにしていくことが大事だというふうに思っています。

県教委としても同じような考えかと思っておりますので、これからも県教委と話し合っ
てまいりますし、また、今日の午後からの本部員会議でも方針は示されると思いますので、お待ちいただきたいというふうに思います。